



読字 原田 親

No. 550

2008/9/5

日中友好協会
岡山支部
〒703-8256
岡山市東区3-8-30-514
TEL.(086)272-3010
郵便振替口座
01250-0-3835
http://rizhong.web.infoseek.co.jp/

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒103-0345 東京都千代田区
西神田2-1-1 東方学会ビル4階

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rizhong.web.infoseek.co.jp
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



今年の目標は600部

09年 カレンダー 定価1200円

「中国悠久の旅」販売始まる

2009年度カレンダーの販売活動がまもなくはじまります。

これまでの五年間、多くのみなさんのご協力で販売部数は順調に伸びてきました。

孤児訴訟原告団、訴訟を支える会、日本語教室、日中岡山支部、日中倉敷支部それぞれの財政に大きな寄与をしてきました。

- 2003年・・・335部
 - 2004年・・・460部
 - 2005年・・・580部
 - 2006年・・・700部
 - 2007年・・・520部
- 今年も、新聞の報道でも「存

知のように、中国 残留孤児」国家賠償請求訴訟が終結しました。新しい支援策が実施される

中国 残留孤児」訴訟を支える岡山県民の会」も五月三十一日で解散しました。

しかし今後も、日本語教室などの運営は維持していきます。中国帰国者の方々への支援は続きます。

また今年も、カレンダー収益の一部が中国四川省大地震の災害復興支援にも充てられます。今年も岡山支部で500部、倉敷支部で100部の目標を立てました。

日中友好協会の西部支部(高梁・総社地区など)を作ろうという総会での目標もありますので、みなさんのご協力を期待しております。

9月末には、現物が到着します。下記の申し込み先へご連絡ください。



2009年 カレンダー 定価1200円

カレンダー購入の申し込み先

- ☆ 日中友好協会 岡山支部
電・FAX 086-272-3010(竹内和夫方)
電・FAX 086-277-2470(小林軍治方)
- ☆ 日中友好協会 倉敷支部
電・FAX 086-446-2711(宮地義男方)
- ☆ 総社日本語教室 事務局
電・FAX 0866-99-2650(西森文子方)



残留孤児資料展」を終えて思うこと

大本芳子

残留孤児資料展」の開催にあたり、お力添えくださった皆様ありがとうございました。期間中200人を超える方々に熱心に見ていただきました。

残留孤児の実情を一人でも多くの方に知ってもらいたいと願い開いた展示会に多くの皆様から貴重なご意見をいただきました。アンケートにお答えくださった方々は、●今回の展示を見て 孤児問題が大体分った ●二度と戦争を起こしてはならないと思う。最大限の援助をしてあげるべきだと思う ●私たちが今平和な日々を送ることが出来るのは、こうした犠牲の上に成り立っていることを忘れてはならない ●主催者に厚くお礼を申し上げます。●このような展示を繰り返して行っていくようにみなでサポートしていかなくては」などなど沢山の声をいただきました。

残留孤児問題は、まだ終わっていません。もっと多くの皆様に見ていただく活動をめざしこれからも頑張りたいと思います。

『し子の微笑みブログ』より

北京からのメール (8月20日)

はじめまして、中国北京の任海涛と申します。太極拳愛好者の皆様におすすめのいいサイトをお勧めいたします。24の簡化、85の楊式、陳式太極拳、八野掌、養生気功の専門サイトです。太極理論、拳術の秘訣、陰陽思想、五行思想、奇経八脈など太極拳養生などの知識を詳しく紹介するサイトです。

http://www.eyojo.com

任 海涛 中国北京より

中国「残留日本人孤児」問題の資料と写真展

倉敷市役所で開催

日中友好協会倉敷支部

中国 残留「孤児問題」について、先頃孤児に対する新支援法の成立により一定の経済的保障が認められましたが、しかし、生活をする上での様々な困難は続いています。

4月に岡山で行われた「残留孤児問題」について、その発生から現在に至る状況についての資料と写真展示が行われましたが、倉敷市においても、多くの市民に知ってもらおうと倉敷支部では、8月11日から15日の5日間、市役所本庁一階ホール(市の提供)で開催しました。

この間200人の方々が参観されました。

元満州からの引き揚げ者で

懐かしがる方、大変な苦勞をしたんだね」日本での生活も大変で支援をしてあげねば」などの言葉が聞かれましたが、アンケートの中では、繰り返し行ってください。沢山の場所で行ってほしい」の他、戦争の悲劇を二度とおこしてはいけない」、戦争の犠牲になった人達を、やはり国が何らかの形で救うのは当たり前だと思えます。等々の意見も寄せられました。今後孤児の方々が心から安心してくらしていけるよう幅広い支援の輪を広げる必要があります。

宮地義男

中国「残留日本人孤児」岡山訴訟終結

「感謝の会」に参加

岡山東公民館 館長 長崎 司

7月12日の午後、ご案内があつて中国残留孤児岡山訴訟終結「感謝の会」に参加させていただきました。我が館内に、該当の方々がお住まいになっておられ、昨年はその方々のお話を聞いた、手作りの水餃子を食べる会等を開催させていただいた。

そうしたご縁もあり、今回同じくお住まいの方々がおられる高島公民館と我が館、そして福祉交流プラザさいでんにご案内をいただいたという訳だ。

ところで、今回最終結した訴訟とは、2004(平成16)年、岡山地方裁判所に、中国 残留孤児の方々が国家賠償請求訴訟を提訴したことに始まる。そしてこの訴訟は、国がこれまで

の支援策が十分でなかった。申し訳ないとの態度を表明し、かつ中国残留邦人等の円滑な帰国の促進及び永住帰国後の自立の支援に関する法律を改正する形で、新しい一定の生活支援制度を打ち出す中で、原告団の方々が取り下げて終結した。

この訴訟について詳しくは、中国残留孤児訴訟岡山弁護団のホームページ、とりわけ裁判を終えるにあつての高杉久治原告団団長及び奥津亘弁護士の見解陳述をお読みいただく、今回の裁判の性格がよく理解できる。

ところで、私はこの訴訟のお話を聞いた時、なかなか困難な訴訟だと思つたことを率直に認

めざるを得ない。行政は不十分でも一定の施策を行ったものについて、それを「否」とする態度は取りにくいし、何しろ帰国されてからでも20年以上の歳月が過ぎており、勝訴は難しいと当時感じたものだ。

それにしても、ご挨拶された原告団の方々の日本語は、上達したとはいえ、じつにたどたどしい。日本に帰国して、20年以上の時間が経過しているというのに。帰国されるまでのご苦労に加えて、帰国されても苦勞の絶えない日々であつたことは想像にかたくな。その意味では、今回の裁判終結は決して終わりはなく、まさに新たな一歩の節目といえよう。「一定の生活支援策」を打ち出した「法改正」に、まさに 命を吹き込み、魂を入れるのはこれからと言えよう。真に人間の尊厳が回復され、かつ生活保障が具体化されるために。

「感謝の会」ご招待 ありがとうございました

尾崎宏子

「感謝の会」で心に残つたのは、「今日はゴールではない、新たなスタート」、「新しい制度に魂を入れるのはこれから」という二つの言葉です。集会は、運動にとりこんできた方々にとっても、会に参加した私たち自身にとっても新たなスタートです。

ネットカフェ難民、介護難民など過去だけでなく今も、日本の政治には、人間の人生を破壊する「棄民政策」が横行しています。

たたかってこそ未来は切り開ける、法を守らせ活かしていかなければ、新たな課題解決に運動の終わらないという思いです。人間を大切に作る社会をつくり上げるために、その土台となる平和のために社会的な連帯を強めて歴史を前に動かしていきましょう。

北京オリンピックの競技が始まった九日に十五年戦争資料センターの「パネル・講演会展」に行きました。満蒙開拓団として岡山から動員された日本人家族、玉野へ強制連行された中国人、朝鮮人など戦争への総動員政策の一端を岡山の地から告発したパネル展でもありました。あらためて、「国家賠償訴訟」の重さをかみしめました。これからもともにがんばりましょう。



左から尾崎さん、高杉さん、小林さん

日中・岡山支部 理事会便り

08年度第2回理事会を開きました。

◎情勢として、北京オリンピックの感想を出し合いました。

◎「よびかけ」は、同じ世界で同じ夢を！という訳がよい。

◎大きな平和が広がった、中国にケチを付ける論評はいただけない。人間の可能性どこまで。

◎マスコミでの終戦行事の扱いは少ない。ニュースの流し方に問題あり。

◎全国大会で決めた目標、11月末までにプラス200人の仲間を。

◎最右翼の映画「南京の真実」を後援している姫路市長に抗議要請文を送る。

◎会費等の滞納を減らす取り組みをする。

◎四川省大地震義援金の現状は。

◎映画「花の夢」会計の赤字を埋めること。

◎2009年カレンダー 中国悠久の旅の普及目標500部に

◎9・18柳条湖事件(満州事変)77周年に当たり街頭宣伝に大勢参加しよう。

県立岡山商業高校 人権教育講演会

6月17日、岡山県立岡山商業高校の体育館で、2年生約320人を対象にした、人権教育講演会が昨年に続き開催されました。

講師は、高杉原告団団長で中国残留孤児の歩んだ道」と題して約70分体験を語りました。通訳は何曉麗さんが担当し、私が重要な解説をしながら進めました。

高杉さんの話は、①、高杉さんが養父母に引き取られるまでのいきさつ。②、高杉さんの養父母の下での生活(小学校時代、就職まで)。③、高杉さんの肉親捜しの努力と苦勞(1972年の日中国交回復とお父さんとの再会)。④、高杉さんの日本語の勉強、日本での生活の困難、日本政府を相手取った訴訟)。⑤、高杉さんが今後したいこと(皆さんへのメッセージ)などです。

生徒の皆さんは、午後の蒸し暑い体育館の床に座ったまま、最後まで熱心によく聞いてくれ



ました。高杉さんも話してよかつたと言っています。事前の指導(中国残留日本人孤児問題)の歴史的背景の説明、高杉さんの略歴などの配布)が行き届いていたと思えました。

次に生徒の、感想の中で印象に残つたこととして、次にくつか挙げておきます、

①、言葉が通じないことの苦痛と同時に言葉の大切さがよくわかつた。②、高杉さんを育てた中国人養父母の優しさから、中国人のイメージが良くなつた。③、実の父と再会した時のことを話す高杉さんのうれしそうな表情が忘れられない。④、日本政府の対応への批判 一などが多くありました。

小林軍治

次回の新聞発送作業は9月11日(木)午後1時半、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

由和 青木 森内 大森 小竹 小竹 坪井